

オーストラリアにおける自国芸術のイメージ

安藤隆之

目次

- 第1章 趣旨
- 第2章 調査概要
- 第3章 全体的特徴
- 第4章 階層別の特徴（次回掲載予定）
- 第5章 政策上の提言（次回掲載予定）

第1章 趣旨

2001年2月、オーストラリアの劇場関係者、美術館関係者、文化行政担当者、中学・高校の国際交流部門担当者、大学の副学長（事務総長）を対象に、オーストラリア芸術に関するイメージ調査を行った。

今回の調査は中京大学の特定研究助成による「個人研究」（「オーストラリア舞台芸術のイメージをめぐる日本・オーストラリア間の落差に関する比較研究」）として実施された。また豪日交流基金の協力を得て初めて実現された。この紙面を借りて両機関に対して深く感謝を表しておきたい。とくに豪日交流基金の前所長テリー・ホワイト氏、前シニア・オフィサー玉井祥子氏、現オフィサー、キャサリン・フニョール氏の協力に対して心から感謝申し上げる。

時間を遡るが、1998年夏、豪日交流基金から日本におけるオーストラリア文化のイメージ調査の依頼があった。限られた時間と予算を前提とするもので引き受けるについては迷いがあった。しかしこれまでのオーストラリア政府の協力に感謝する意味でお役に立ちたいという思いと、オーストラリアの劇場研究のプラスになるかもしれないという気持ちから引き受けることにした。調査の結果は『日本におけるオーストラリア芸術のイメージ調査』（オーストラリア大使館文化部出版）としてまとめられた。翌年にはその追跡調査（第二次調査）を実施し、日本におけるオーストラリア文化政策への提言という形で「第二次レポート」（final report）を作成した。この二つのレポートはオーストラリア議会に〈Ando report〉として提出され、豪日交流基金の活動実績として評価されることになったが、筆者にとっては望外の名誉であった。

さて、オーストラリアの芸術文化を日本で普及させるための調査をオーストラリアにおいて実施す

るのはなぜか。開拓すべきマーケット（市場）は日本ではないのか。この疑問に答える必要がある。

芸術文化の輸出入（貿易）は一般の商品取引と異なり、社会貢献活動と言うべきだろう。たとえば、日本でオーストラリアの芸術文化として普及しているものに、工芸品ではオパールを使ったアクセサリー、音楽ではアボリジニの伝統音楽がある。しかし1998年の「オーストラリア年」では、絵画展やオーストラリアのパレエ（ダンス）、クラシック音楽が紹介された。オーストラリア大使館としては伝統的芸術ジャンルにおいても欧米に負けない水準にあり、できれば今後オーストラリアの美術品の展示会や舞台の招聘公演を企画してほしいという期待があった。欧米に対する対抗意識も強く感じられたが、結果として日本はその期待には応えられなかった。その矢先、貿易省は世界に配置されている大使館に対してアートマーケットの現状報告を求めた。筆者に依頼されたイメージ調査はこうした背景から実施された。筆者はオーストラリア大使館と豪日交流基金のスタッフとも相談して、限られた時間と予算の範囲でもっとも有効な調査方法を検討した。筆者としては単なる調査に終わらないものにするために、第二次調査を含む調査デザインを提案した。豪日交流基金所長だったテリー・ホワイト氏はこれを高く評価してくれた。筆者は玉井祥子氏と協力して、直ちに調査を実施した。その結果、本国政府への報告が間に合ったことは言うまでもないが、意味のある調査になったものと自負している。調査で判明したことは多々あるが、例えば映画分野の広報が不足していること、日本のマーケットに受け入れやすい芸術ジャンルから攻めるべきであるという提案をした。豪日交流基金のホームページではただちに映画紹介が始まった。しかし今後オーストラリア側の期待に答えるべく協力を惜しまないとしても、オーストラリアの関係者が本当に期待しているものは何か。オーストラリアの芸術関係者が日本においてどのようなオーストラリア芸術が普及すればよいと期待するのか。国家としては自国の文化的ステイタスを称揚することは外交上必要であるが、両国の文化的関係を深めていくには文化的ステイタスの確認に終わっていいはずがない。それは始まりに過ぎない。オーストラリア国民は自国芸術をどのように受けとめているのか。とりわけオーストラリアの芸術家が考えていることを広範な日本人芸術愛好家に理解してもらう必要があるのではないか。しかし筆者の調査は国民的レベルにおいて行うものではない。それは個人研究の限界を越えるものである。筆者の目的は、専門家レベル（公共文化施設の企画担当者、美術館のキュレーター、劇団のマネージャー、教育現場の関係者）において何をすればより効果的かを発見し、実務的で即効性のある文化政策的提言を作成することにある。総論的長期的ではない個別的短期的な具体的施策を立案することにある。

他方、一連の調査の副産物として、1つの文化（culture）が二つの異なる国民（nation）においてどのように共有されているか、あるいは非共有されているかを分析する機会となった。比較を通して双方の考え方が浮かび上がり、とりわけオーストラリア人の考え方が発見でき、筆者のオーストラリア研究に貢献する結果となった。

第2章 調査概要

- (1) 第1次&第2次調査との連続性を保つために、アンケートの調査項目の相当部分に同一の質問事項が設定された。調査対象が違うために多少無理な設定もあったが、できるだけ意味のある調査にするために意見調整を重ねて工夫した。内容は資料(1)の通りである。なお第1次&第2次調査について報告書が作成されている。日本語版と英語版があり、駐日オーストラリア大使館の付属図書館に保存されている。
- (2) 調査対象者も同様の階層が選択された。すなわち1. 劇場関係者、2. 美術館関係者、3. 文化行政担当者、4. 高校学校関係者、5. 大学関係者、6. 議会関係者、7. 一般聴衆である。
- (3) 集計の都合上、階層と所属地域がわかるようにナンバリングを行った。
- (4) 前回同様に、調査対象者の主体は一般聴衆ではなく芸術文化分野の専門家であるため、出発点からして人数が限定される。しかし有意の数値を生み出すために、各階層60通以上で回収率30%、全体で500通の発送と回収数150通をめざした。結果は第3章以下で紹介される。
- (5) 発送先のリストアップのために、オーストラリア・カウンシル主催の「第4回アーツ・マーケット」参加者名簿を利用した。2000年2月、南オーストラリア州アデレード市において開催されたときに作成された「The Australia Council's 4th Australian Performing Arts Market The Guide」に掲載された参加者リストを利用した。調査の目的は文化政策の立案、つまり芸術文化の輸出入に関心を持つ人々をより行動へ導くためのものであるため、モチベーションの有無を重要視した。1回の参加者リストの利用によって重要な個人&団体のリストアップ漏れを避けるために、「APAD (Australian Performing Arts Directory 1999 edition)」を利用した。
- (6) 美術館関係者については、オーストラリア大使館提供のdirectoryを利用した。またリストアップは美術館に詳しい玉井祥子氏に一任した。
- (7) 文化行政担当者については、主要な関係機関に発送した。
- (8) 学校関係者については宛名に個人名を書かないで部署と役職(中高校は国際交流部門、大学は副学長)宛てとした。中学・高校は一定数をアトランダムに選択して発送したが、大学については全大学に発送した。
- (9) 議員については、回収がどれほど期待できるか不明であったが、上下院の全議員に送った。リストはホームページで公開されている住所を利用した。
- (10) 当初の計画では10月に郵送する予定でいたが、豪日交流基金スタッフの人事移動があつて手配が遅れた。その結果、アンケートの郵送は2月上旬、ヒアリング調査は3月上旬から下旬にかけて実施した。アンケートの回収については、夏期休暇の終わる時期であるためかなり懸念された。
- (11) 現地でのヒアリングは、時間と予算の関係で、QLDのCairns市からスタートし、NTのDarwin市、NSWのSidney市、Canberra市、VICのMelbourne市、TASのHobart市に限定した。

資料（1）アンケート全文

QUESTIONNAIRE

for the development of Australian arts export to Japan

“We express our gratitude in advance for your collaboration.”

01: What kind of Australian arts do you appreciate in the life?

- 1 () Art exhibition (at any picture gallery or art museum)
- 2 () Exhibition of accessories (at any place such as hotel, street, store, gallery)
- 3 () Classical music concerts, opera performances (at any theater)
- 4 () Popular or folk music concerts or jazz sessions (at any concert hall)
- 5 () Dance performances (ballet, modern dance, etc) (at any theater)
- 6 () Drama and musical performances (at any theater)
- 7 () Varieties show, circus (at any club or circus house)
- 8 () Cinema (at any theater house)
- 9 () TV & radio programs (films, dramas, dances, concerts, etc)
- 10 () Video, cd, dvd (films, dramas, dances, concerts, etc)
- 11 () Internet Web site programs (music, fine arts, debates on arts , etc)
- 12 () Other: Please indicate. ()

02: How many times a month you go out for admiring and enjoying the Australian arts?

- 1 () a few times a year
- 2 () once a month
- 3 () twice a month
- 4 () third a month
- 5 () more than four times a month

02-2: How about the overseas or foreign arts?

- 1 () never
- 2 () a few times a year
- 3 () once a month
- 4 () more than twice a month

02-3: Do you think Australian arts have a distinct individuality? (yes no neither)

02-4: To those who replied (yes) to the above question, is it true particularly in which arts?

Please choose three genres from the question 01: (1 2 3 4 5 6 7 8)

- 2 () Classical music
- 3 () Popular music, jazz, folk music
- 4 () Opera
- 5 () Classic ballet, modern dance
- 6 () Theatre, musical play
- 7 () Cinema
- 8 () Other. What type of art? ()

10: With regard to the facilities for the arts in other states,

10-1: When you leave your own town, which state do you visit ordinarily?

Please mark only one state.

- 1 () Australian Capital Territory (Canberra)
- 2 () New South Wales
- 3 () Northern Territory
- 4 () Queensland
- 5 () South Australia
- 6 () Tasmania
- 7 () Victoria
- 8 () West Australia

10-2: Do you visit theater or concert hall or museum during your visit? (yes no)

10-3: To those who replied (yes) to the above question, is it for what type of arts or entertainment?

- 1 () Fine arts
- 2 () Classical music or opera
- 3 () Popular music, folk music, jazz, etc
- 4 () Ballet or modern dance
- 5 () Drama, musical play
- 6 () Show, circus, varieties, etc
- 7 () Cinema
- 8 () Others. What type of arts do you enjoy? ()

11: With regard to Australia's image that you conceive.

- 1 () Australia is a rich country? (yes no neither)
- 2 () Australia is a cultural country? (yes no neither)
- 3 () Australia is a bellicose nation? (yes no neither)

- 4 () Australia is a European-style country? (yes no neither)
- 5 () Australia is an American-style country? (yes no neither)
- 6 () Australia is an Asian-style country? (yes no neither)
- 7 () Australia is a nation which has its own unique individuality?
(yes no neither)
- 8 () Australia is a closed country? (yes no neither)
- 9 () Australia is a safe country? (yes no neither)
- 10 () Australia makes feel uneasy about the future? (yes no neither)
- 11 () You would like to continue living in Australia? (yes no neither)

12: With regard to the image of Australian arts. Please answer according to your image.

- 1 () The standard of Australian drama is (high fair low)
- 2 () The standard of Australian ballet or modern dance is (high fair low)
- 3 () The standard of Australian classical music is (high fair low)
- 4 () The standard of Australian popular music or jazz is (high fair low)
- 5 () The standard of Australian folk arts is (high fair low)
- 6 () The standard of Australian fine arts is (high fair low)
- 7 () The standard of Australian handicrafts is (high fair low)
- 8 () The standard of Australian literature is (high fair low)
- 9 () The standard of Australian cinema is (high fair low)

13: Are you interested in artistic events from overseas? Please choose up to two areas or countries.

- 1 () United Kingdom
- 2 () Western and Central Europe (France, Switzerland, Austria, Germany, Italy, etc)
- 3 () Eastern Europe (Poland, Roumania, Russia, Greece, etc)
- 4 () North America (Canada, USA)
- 5 () Mexico, Central America and South America
- 6 () Middle east and Central Asia (Egypt, Isarael, Iran, Iraq, Pakistan, India, etc)
- 7 () South Asia and Pacific (Thailand, Singapore, Indonesia, Tahiti, Fiji etc)
continued ↓
- 8 () East Asia (Japan, China, Korea, etc)
- 9 () Africa
- 10 () Others. Please specify which country ()

14: With regard to artistic exchanges between Australia and Japan.

14-1: You have (high expectations a few expectations no expectation)

14-2: Export of the Australian arts to Japan is at present,
(flourishing stagnant neither)

14-3: Export of the Japanese arts to Australia is at present,
(flourishing stagnant neither)

14-4: The possibility of Australian arts export to Japan is (high low neither)

14-5: Its development will reach the same level that United Kingdom and United States have realized after the War? (yes no neither)

14-6: In Japan, Australian arts are (well known a little known unknown)

14-7: The possibility that Japanese people appreciate Australian arts is
(high low neither)

14-8: If there is any barrier or any difficulty which is in the way of its development at the level of Japanese cultural administration, it is maybe:

- 1 () because Japanese officers don't appreciate Australian arts.
- 2 () because Japanese officers know little about Australian arts.
- 3 () because Japanese officers don't believe that their people appreciate Australian arts.
- 4 () If you have another different opinion, would you write it in brief?

15: If you have a plan to undertake a specific stage performance (music, dance, theatre, etc) or an art exhibition in Japan, would you fill in the contact details below?

Name or name of organization	()
Type of art and title of production	()
Contact address	()
Contact telephone	()
facsimile	()
Homepage	()
Email address	()

16: If you have any idea or any suggestion about the development of Australian art's export to Japan, please write it here:

Our report will be open to the public at the end of 2001 as newsletter and web news of Australian Embassy in Tokyo and as an academic article in the bulletin of the Institute of Cultural Studies of Chukyo University.

Thank you very much for your collaboration with patience.

第3章 全体的特徴

Topics-1 回答率は29.4%である。

日本での調査（第一次イメージ調査）は46%の高回答率を得たが、これと比較すると低い回答率だった。

理由は色々考えられるが、日本との文化交流に関するオーストラリア人の関心の度合いを反映しているかも知れない。なお発送総数は584通（手渡し分含む）であったが、国会議員への発送（131通）と回答（6通）を特別に扱うこととして、統計上の分析対象はその分を差し引いて453通とする。453通の送付に対する回答数は133通であったので、回答率は29.4%となる。500通発送で150通（30%）回収という当初の目的はどうか達成された。

Topics-2 学校関係者の回答率が、日本での調査（54～55%）と比較するとかなり低い。

中学高校の国際交流部門の担当者からの回答率は約18%、大学の副学長（chancellor）からの回答率は約27%であった。全体の回答率を押し下げる原因となったが、低率であった理由としては色々考えられる。一つは調査時期が2月上旬であったため夏期休暇と重なったことがある。

Topics-3 劇場関係者、美術館関係者（公立美術館あるいは民間のギャラリーのキュレーター）の回答が日本での調査（46%～48%）と比較すると、低かった（32%前後）。

日本での調査は部署宛てであったが、オーストラリアでは個人名で発送した。職業上の習慣の違いを考えてのことだった。部署宛てに発送すると、回答を得られないにくい国である。日本では学芸員、キュレーターなどの専門職を除けば、文化行政の担当者は3年か6年おきに移動する。個人主義が成熟してきたといっても、自分の判断よりは大勢に従う傾向がある。欧米に比べれば今も横並びにする傾向がある。前任者の方針が継承・踏襲される傾向にあるため、文書管理はあたかも同一人物の処理であるかのように行われる。日本での回答率の高さはその所産であったところもある。これに対してオーストラリアでは、美術館あるいは画廊のキュレーターの人事異動は頻繁である。かれらはキャリアアップを求めて転々と移動する。永久就職の日本と異なり、地位が任期制であることも忘れてはならない。オーストラリアではつい最近まで重職にあった人物に翌年会いに行くと、フリーランスになっていることがある。文化行政職の自由マーケットが出来ていると言っても良い。アメリカも同様であるが、日本の職場環境とは著しく異なる。

Topics-4 回答率の地域的傾向はほとんど表れなかった。

西オーストラリアの35%を筆頭にいずれの州も30%前後の数字であった。ただし南オーストラリアは24.3%という低回答率であった。理由は説明可能である。発送先のリストは、2000年3月に南オーストラリアの州都アデレード市で開催されたアーツ・マーケットの参加者リストを使用した。他の州からの参加者は少人数でも飛行機とホテルを使っただけの参加になるから、参加モチベーション（動機）がしっかりしている。アンケートはマーケティングに関わるものなので、結果への期待から関心を集めても不思議はない。他方、南オーストラリアの参加者はイベントの成功のために通常以上に動員されたと思われる。他の州で開催された場合には出席しない人々も多かったのではないかと推測される。

Topics-5 回答者の芸術鑑賞活動は、単純平均すると月3回で、半数以上の方が月に4回以上鑑賞している。

鑑賞分野は幅広い。上位から言えば、美術、テレビの芸術系プログラム、演劇、舞踊、媒体を使う鑑賞、クラシック音楽、ポップやジャズなどの順である。これが第一グループを形成し、次に工芸品、民族系芸術、インターネット上の芸術系プログラムが続いている。

Topics-6 海外の芸術鑑賞機会は、単純計算で2ヶ月に1回である。

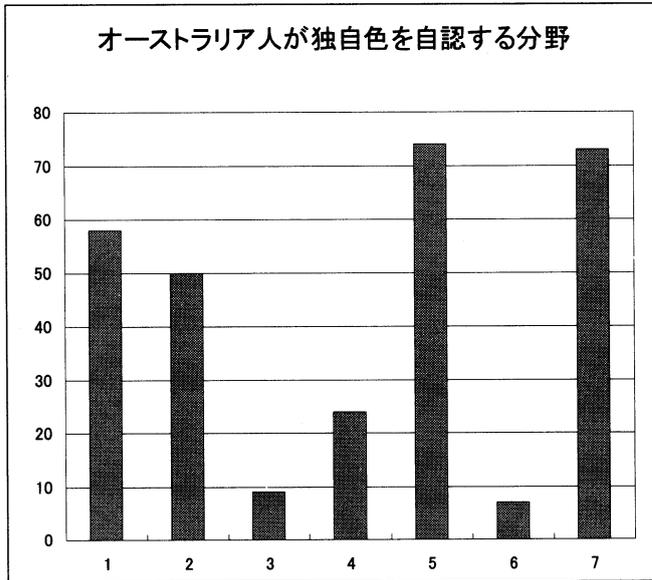
年に数回という人が64%、月に1回という人が22%、月に2回という人が14%であった。多くもないが、少なくもない。しかし国際化ということを考えると、自国芸術を世界の中で考えるためには、もう少しあってもよいのではないかと推測される。第4章で触れるが、月に1回以上の人数を地域（州）別に見ると、NSWとVICが多かった。シドニー市とメルボルン市における鑑賞機会の多さを示す数字である。

Topics-7 87%の人がオーストラリア芸術は「明白な個性（distinct individuality）」を持っていると考える。

長い間、独自の芸術の弱さに悩んできたオーストラリアであるが、いまや自国文化に自信を持っていると言えるだろう。

Topics-8

「明白な個性 (distinct individuality)」の存在はどの分野についてより言えるか。



1. 演劇 (ミュージカル含む) 2. 舞踊 3. クラシック音楽 (オペラ含む)
 4. ポップ音楽、ジャズ、フォーク 5. 美術 6. 工芸品 7. 映画

主な分野は一位「美術」、二位「映画」、三位「演劇」、四位「舞踊」であり、トップ集団を形成している。「クラシック音楽」はトップ集団から脱落していると言わねばならない。ポップ音楽に比較しても相当低い評価である。こうした認識で、オーストラリア製の「クラシック音楽」を日本へ売り込むプライオリティがどこまであるのだろうか。

Topics-9

芸術に関する情報はどこから得ているか。主要3情報源は、第1位「新聞」、第2位「ダイレクトメール (DM)」、第3位「芸術系雑誌」である。

「新聞」の種類は、以下の4紙が目立つ。「Australian」が多いのは、他の新聞と併読されているからである。「Australian」以外は言うまでもなく特定の都市を拠点とする新聞である。

第一位	Australian	42名
第二位	Age	34名
第三位	Sidney Morning Herald (SMH)	30名
第四位	Courier Mail	9名

第五位は、「インターネット」になっている。予想としては、今後インターネットによる情報入手が主流になるであろう。現状ではコンテンツが少ないだけであって、その充実

をまって急速に普及するであろう。第六位は「その他」であったが、内容を文章回答でお願いした結果、「friends」という回答が目立つ。口コミによる情報の流布や観客動員は日本でもオーストラリアでも有効な手段であることになるが、現時点ですでにインターネットの比重が優っていることを考えると、DMも含めてインターネット経由という方法が今後有力になるだろう。

ちなみに、回答者の75人(57%)がインターネットの常用者であったが、そのうち47名がインターネットによる芸術関係の情報入手を重視しているに過ぎない。これはコンテンツ不足を意味している。

一般並びに芸術系雑誌による情報入手であるが、オーストラリアの専門家たちが利用しているのは以下のものである。

- 第一位 『Art Monthly』(18人)
- 第二位 『Art & Australia』(10人)
- 第三位 『Real time』(7名)
- 第四位 『Arts Asia pacific』『Word of Mouth』(5名)
- 第五位 『Austdance』『Bulletin』(4名)
- 第六位 『Art Almanac』『Art text』『World arts』『Artforce』(3名)

* 『Art in Australia』は『Art & Australia』の姉妹雑誌なので、一緒にカウントした。

Topics-10 芸術家&芸術創造団体との関わり方については、56%の人が特定の芸術家&芸術創造団体を支援をしている。また51%の人が芸術創造団体のメンバーである。

Topics-11-1 文化施設(劇場、コンサートホール、美術館等)の設備&運営に対する評価

まず目につくのは民間施設の評価より公共文化施設の評価が高いということである。公共ホールの優秀さを33%の人が指摘し、公共美術館施設の優秀さを42%の人が指摘している。これに対して民間施設が優れていると答えた人は、9%少々に過ぎない。運営面についても同様に、民間施設についての評価は辛い。企画面についても同様である。社会貢献という視点から見ても、公共文化施設については50%の人が「大いに貢献している」と判断するが、民間施設は25%少々の方が高く評価するに過ぎない。

歴史的経過を考えると、文化施設は20世紀前半までほとんど民間資本に依存していた。しかし第二次大戦後、文化振興という視点から政府主導で社会基盤整備が開始される。今では各州都に立派な公共文化施設が建設されているが、この数字はそれに対する関係者の評価とも言える。

公共文化施設では、すべての面で劇場よりも美術館の方に評価が高く出ている。それだけシアター・マネージメントは難しいということでもある。

Topics-11-2 回答者の92%の人は自州に誇りに思う芸術家がいると考えている。

これはすべての地域に優れた芸術家とその表現活動があるという認識であり、日本からするとوراやましい感じである。ただしオーストラリアは道州制を敷いており、わずか6つの州、首都そして特別地区の8つの地区から構成されている。これに対して47の都道府県に分断されている日本では、芸術家の偏在が発生している。文化振興あるいは芸術の享受という視点からして、どちらが優れているかということは検討してもよい。たとえば、州が一つの地域となるかどうかについては議論があるだろう。メルボルンから300キロ以上離れたところに住んでいる人が日常的に出かけられないところに芸術家や劇団がいることを幸福に感じかどうかは疑問である。日本の場合、都市を中心とする公共交通機関が発達しており、県庁所在地に1時間以内に行ける人、あるいは県庁所在地から半径30キロ以内の人が大半であるが、自分の県で全国区の芸術家が活躍していると思うことが出来るかどうかは疑問である。人口規模や予算効率を考慮して、どのようにすればベターあるいはベストの文化行政が可能なのか。国によって事情は異なるが、文化政策上の重要な検討事項である。

Topics-11-3 どの分野に誇れる芸術家がいるか。圧倒的多数が「美術」と「演劇」と答える。

芸術分野	回答数
1 美術	88
2 クラシック音楽（オペラ含む）	47
3 ポップ音楽、ジャズ、フォーク	46
4 オペラ	25
5 舞踊（バレエ、モダンダンス）	50
6 演劇（ミュージカル含む）	83
7 映画	38
8 その他	18

先に「明白な個性（distinct individuality）」を持つ分野を尋ねたが、ほぼその結果と合致する。やはり個性的あるいはオリジナルな表現のできる人がすぐれた芸術家ということである。オーストラリアの芸術文化を海外で普及しようとするならば、それが優先されてしかるべきだろう。

「映画」の順位が低いのはなぜか。理由は色々ある。まず映画の製作ができる都市が限られている現実である。基本的にはシドニーとメルボルン、とりわけシドニーである。映画は巨大な資本を必要とする産業であり、インフラのないところでは活動ができない。地域が限定されても仕方がない。しかし文化政策いかによっては、各地域のテレビドラマの制作振興も兼ねて分極化（decentralisation）ということもあり得る。少なくとも日本の場合、東京と京都にあるが、その他の大都市においても制作は実施されている。

第2の理由としては、オーストラリアでは、日本やアメリカのように、映画俳優が舞台

俳優と切り離されて養成されていないということである。フランスにあっては、人気の高い映画俳優でも舞台に立てなければ、評価は高くない。オーストラリアもそういう印象がある。したがって映画俳優であるよりも前に舞台俳優として評価されるため、映画人として扱わないことが反映されたと思われる。

「オペラ」は「ダンス」の半数の評価しか得ていない。ただしオペラを上演するには、映画産業同様に相当なインフラ（社会基盤）が必要であるため、地域的偏在が発生している現実もある。実際、オペラを選択しているのは、主としてNSW, VIC, SAの三州である。それが順位の低い理由でもある。

日本と同じく「オペラ」に関して後発のオーストラリアにあっては、まだ十分な歴史を経ていないということもある。やはり同様に後発だったアメリカはこれに対して、プロデュースによって諸外国の一流歌手を集めて水準の高い作品制作をめざす道を選んだ。他方で、ブロードウェイ・ミュージカルという新しい楽劇ジャンルを切り開いた。オーストラリアは、日本もそうであるが、現状の打開のためには何をすればよいのか。すくなくとも優れたオペラハウスの建設では目的を達成できない。次になすべきことは何か。何千万ドルというギャランティを払って、リスクの高い興行を実施するか。それとも別の方法を見つけるか。筆者はロンドン発のミュージカルは一つの答えを示していると考える。アメリカのブロードウェイのように、巨大な資金を投資しての作品作りではなく、コンパクトな楽劇をたくさん作る。失敗を恐れず、オリジナルな作品を作り出して、世界へ発信する。そこに活路があると考えます。

Topics-12 「その他の分野」で誇りにできる芸術家&芸術創造団体がいるか。

今回の調査では、その他の分野（8）について文章回答をお願いしたが、紹介されたものを列挙すると、以下ようになる。

contemporary art	7 (contemporary visual arts ; multimedea design multi-art form ; public art ; contemporary new music)
circus	4
traditional indigenous art & music	3 (aboriginal performance & arts)
physical theatre	2 (performace)
craft & design	2 (ceramic)
literature	1
rock music	1
festivals	1

アンケートの回答項目として列挙した8分野（美術、クラシック音楽、ポップ音楽&フォークミュージック、オペラ、舞踊、演劇、映画、その他）は現状の芸術表現活動に見合ったものではない。いまや古典的な分類と言ってもよいだろう。欠落していると思われる

るものでオーストラリアがどの分野に自信を持っているかが知りたかった。その結果、主張されたものは納得がいくような気がする。第一に、現代芸術分野 (contemporary arts) である。視覚芸術、マルチメディア利用の視覚芸術、公共空間に展示される美術品などが紹介された。アンケートの最後に、オーストラリア芸術をどのように日本に紹介するか (売り込むか) についてアイデアを求めたが、そこにおいて現代芸術の紹介が重要であるという指摘があった。19世紀的ヨーロッパ文化の延長線ではなく、未来において共有できる芸術こそ紹介すべきであるというのである。説得力ある考え方である。

第2に多かったのはサーカスである。メルボルンに拠点を置く「(circus) OZ」という表現集団があるが、いわゆるサーカス (曲芸) ではなく、身体の復権という意味合いで70年代以降に登場する演劇運動の中から誕生した創造団体である。

第3は、「先住民の芸術 (indigenous art)」である。オーストラリアが国策としてアボリジニあるいはアイランダーたちの文化を建国の出発点とする方針を持っているように、アボリジニ音楽を単にフォークミュージックとは考えない人々がいるということである。日本は、第一次イメージ調査において民族音楽への評価が非常に高かったことが示すようにアボリジニ音楽をよく知っている。高い評価もしている。しかしオーストラリア側は必ずしもこれを鑑賞対象としていないアンケート結果が出ている。少数者のみがその価値を評価しているというのが現実のようである。

「physical theatre」が具体的に何を意味しているか不明だが、パフォーマンス性の高い演劇であることは間違いないだろう。モダンダンスに近いのかも知れない。現代演劇や現代舞踊として、演劇や舞踊の分野に入れてもよいはずだが、1つの独立したジャンルとして評価しようという考え方のようなのである。

「文学」という回答は、出るべくして出てきたものである。私たちは主として舞台芸術や美術を主眼としていたから、その不備を感じての回答であった。

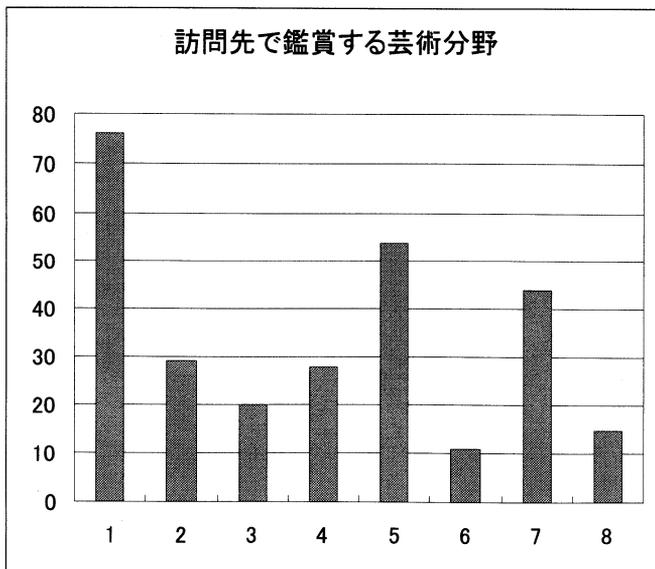
「フェスティバル」という回答は意味深い。1つの芸術ジャンルでのコンクールや祭典ということではなく、あらゆる芸術的表現を同じ空間、同じ時期に集める企画は重要な芸術事業である。コミュニティ・シアターの発想も近いものがあり、異文化交流あるいはオーストラリアが掲げる多文化主義 (multi-culturism) という視点からいえば、これからこそ検討すべき〈ジャンル〉かも知れない。

Topics-13 自州以外で持っている鑑賞機会については、NSWとVICの二極構造になっていることが確認された。現住所にかかわらず一番頻繁に出かける地域を示せば以下のようになる。

	州名	訪問者数	比重
1	ACT	11	8.0%
2	NSW	64	46.7%
3	NT	0	0%
4	QLD	11	8.0%
5	SA	11	8.0%
6	TAS	6	4.4%
7	VIC	32	23.3%
8	WA	2	1.4%
	合計	137	99.8%

*総数が137であるのは、一つだけの選択であるにも関わらず二つ以上の選択をした人がいた。これを有効と見なして計算した結果である。

Topics-14 訪問先で何を鑑賞するか。美術、演劇、映画がトップグループを形成している。



1. 美術 2. クラシック音楽 3. ポップ音楽 (フォーク、ジャズ含む) 4. 舞踊
5. 演劇 6. バラエティー 7. 映画 8. その他

美術は民間の画廊を別にすれば、夜の鑑賞がない。これに対して演劇や映画は夜に鑑賞するケースがほとんどである。両者は両立する。舞踊の鑑賞は相対的には少ないが、興行自体が少ないことも忘れてはならない。この統計がただちに芸術ジャンル別の評価にはならない。

Topics-15 オーストラリア人の自国のイメージは日本人のもつオーストラリアのイメージと似ている。

Questions	yes	%	no	%	neutre	total
1 お金持ちの国か。	76	59.4 %	17	13.3 %	35	128
2 文化的な国か。	99	76.2 %	13	10.0 %	18	130
3 好戦的な国か。	15	14.7 %	64	62.7 %	23	102
4 ヨーロッパタイプの国か。	58	47.5 %	38	31.1 %	26	122
5 アメリカタイプの国か。	56	45.9 %	39	32.0 %	27	122
6 アジアタイプの国か。	45	37.2 %	48	40.0 %	28	121
7 独自の個性を持つ国か。	118	90.8 %	5	3.8 %	7	130
8 閉鎖的な国か。	17	13.5 %	91	72.2 %	18	126
9 安全な国か。	113	88.3 %	3	2.3 %	12	128
10 未来に不安をいだかせる国か。	21	18.4 %	77	67.5 %	16	114
11 このまま国内で住み続けたい国か。	129	97.7 %	1	0.8 %	2	132

オーストラリア人の自国イメージを手短かに言えば、

「どちらかと言えばお金持ちの国で、独自の個性を持ち、文化的で、安全で、住みやすい国」である。

オーストラリア人のイメージ(上)と日本人のイメージは傾向としては一致する(下)。

ただし詳細を見ると、日本人は文化的であるよりお金持ちの国であると考え、また未来の不安はまったく感じられない国であると受けとめる。これに対して、オーストラリア人はお金持ちであるより文化的であると考え、20%近くの人が未来に対して不安があるとする。

他方、日本人はオーストラリアをアメリカよりもずっとヨーロッパに近いと感じるが、オーストラリア人はタイプとしてはヨーロッパ的、アメリカ的、アジア的、どの方向性に対しても一定の肯定(40%~50%)がある。分裂状態とも多様性とも言える感想を抱いている。文化交流を考える時、このギャップは障害になる可能性がある。

Questions	yes	%	no	%	neutre	total
1 お金持ちの国か。	499	87 %	4	1 %	68	571
2 文化的な国か。	364	66 %	33	6 %	157	554
3 好戦的な国か。	27	5 %	474	86 %	51	552
4 ヨーロッパタイプの国か。	271	48 %	127	23 %	165	563
5 アメリカタイプの国か。	144	26 %	229	42 %	177	550
6 アジアタイプの国か。	34	6 %	364	67 %	148	546
7 独自の個性を持つ国か。	419	74 %	39	7 %	105	563
8 閉鎖的な国か。	21	4 %	455	82 %	76	552
9 安全な国か。	420	75 %	17	3 %	124	561
10 未来に不安をいだかせる国か。	7	1 %	477	86 %	68	552
11 住んでみたい国か。	384	68 %	38	7 %	141	563

(『日本におけるオーストラリア文化に関する意識調査』p. 13掲載のグラフを数値表示化した。)

Topics-16 自国芸術については、「文学」「映画」「美術」「舞踊（ダンス&バレエ）」を評価している。

	Genre of arts	high	%	fair	%	low	Total (persons)
1	演劇の水準	74	56.9	54	41.5	2	130
2	バレエあるいはモダンダンスの水準	92	70.8	36	27.7	2	130
3	クラシック音楽の水準	76	60.8	45	36.0	4	125
4	ポップ音楽の水準	84	66.6	39	31.0	3	126
5	民俗芸術の水準	41	34.2	69	57.5	10	120
6	美術の水準	94	74.0	31	24.4	2	127
7	クラフトの水準	63	51.6	54	44.3	5	122
8	文学の水準	96	74.4	30	23.3	3	129
9	映画の水準	98	74.8	27	20.6	6	131

オーストラリアの芸術文化関係者は、自国芸術の中でとくに「文学」「映画」「美術」「舞踊（ダンス&バレエ）」に自信を抱いていることがわかる。自信がないのは、「民俗芸術」である。ただしオーストラリア人は「民俗芸術」（Folk arts）というジャンルに先住民の芸術（indigenous arts）を入れていない可能性がある。「民俗芸術」（Folk arts）とは移住者の伝承芸術（traditional arts）のことであるという理解であったかも知れない。他方、もしそうであれば、先住民の伝承芸術というものはオーストラリアの芸術として認識されていないか、あるいは別格扱いされていることになる。国内政治レベルでも困難かつデリケートな問題であるのでこれ以上立ち入らないが、日本はアボリジニ（先住民）の芸術をオーストラリアという国の民俗あるいは民族芸術として受けとめて、大変評価しているという実態がある。文学については、芸術ジャンルでもっとも評価の低いジャンルでもあり、オーストラリア人との評価ギャップは著しい。イメージとはあくまで虚の世界のことなので、オーストラリア側としてはまず虚実のギャップを埋めることが必要である。オーストラリア人と日本人の「オーストラリア芸術」に関するイメージの落差は第4章で検討するので、ここでは両者のギャップの激しい部分を紹介するに留める。

	Genre of arts	high	%	fair	%	low	Total (persons)
1	演劇の水準	84	16.9	369	74.2	44	497
2	バレエあるいはモダンダンスの水準	116	23.6	342	69.7	33	491
3	クラシック音楽の水準	123	24.4	345	68.5	36	504
4	ポップ音楽の水準	91	18.5	359	72.8	43	493
5	民俗芸術の水準	213	43.0	254	51.3	28	495
6	美術の水準	152	30.2	323	64.1	29	504
7	クラフトの水準	144	28.7	325	64.7	33	502
8	文学の水準	56	11.4	373	76.1	61	490
9	映画の水準	96	19.4	323	65.3	76	495

（『日本におけるオーストラリア文化に関する意識調査』）

Topics-17 鑑賞したい外国の芸術文化については、東アジアへの関心が高く、北アメリカへの関心が低い。

直接的には日本のマーケットへの関心の度合いを知るためのものであるが、オーストラリアの芸術文化関係者がどこの国の芸術を参考としているかという問題でもある。かれらがどんな芸術を模索しているかを教えている。

日本を含む東アジアへの関心が一番高い。アンケートの回答を返送してくれた人々であるから、オーストラリアと日本の関係に関心を持つ人々が多いのも当然であるが、ダントツの数字を示している。アンケート方法としては2地域の選択であるが、欧米では中部&西ヨーロッパへの関心が高い。これに対して北アメリカへの関心が低い。意外である。ゴールドラッシュ時期から積極的にアメリカ文化を導入してきたにも関わらず、新大陸への関心は今ひとつということである。コンテンポラリー・アーツの本家でもあるような米国への関心度について、一つの数字でもって判断することに慎重になるとすれば、長い文化的歴史を持つ東アジアに関心を持つ人々は、ポップなものよりも伝統に関心を持つ人々であるかも知れない。アンケートに答えなかった70%の人々の中にこそ、北米への関心を抱いている人々が多いということかも知れない。

日本での調査では、日本人はオーストラリアをヨーロッパ的なイメージで受けとめているが、それは事実認識というより期待を意味しているかもしれない。イメージというものは、真実に近いというよりは期待に近いものである。オーストラリア人自体がアメリカよりはヨーロッパに関心をもっているということは、同じような感想を抱く日本への進出という意味では有利である。もっともそれはマーケティング上の戦略として好都合ということであって、文化交流のあるべき姿は双方の傾向性を強めることにあるわけではない。むしろ双方の傾向にないものへの開眼にある。

南アジア&太平洋諸国への関心も高い。白豪主義を捨てたオーストラリアがアジアの一員をめざすかどうかは未知数だが、自国の置かれている地理的位置を意識していることは確かである。

鑑賞したい世界の国々の芸術	Persons
1 英国	36
2 中部&西ヨーロッパ	53
3 東ヨーロッパ	19
4 北アメリカ	28
5 中南米	25
6 中近東&中央アジア	16
7 南アジア&太平洋諸国	46
8 東アジア（日本、中国、韓国等）	62
9 アフリカ	8
10 その他	0

Topics-18 対日文化輸出の現状と未来

現状は「不活発」であるが、可能性は大きい。しかし先行する欧米に追いつけるかどうかは未知数である。

(1) 豪日間の芸術的商品の交易は概して不活発であるが、オーストラリア側の輸入超過であるという印象がある。

日本への文化輸出、日本からの文化輸入については、「盛んか 不活発か」という問いかけにたいして、4人に1人が「不活発」と答え、約60%の人が「どちらでもない」と考えている。開拓の可能性があるという考えなのか。

Q14-2	日本への文化輸出の現状をどう判断しているか。	Persons	%
1	盛んである。	5	3.7
2	不活発である。	38	28.4
3	どちらでもない。	78	58.2
4	無回答	13	9.7
Q14-3	日本からの文化輸入の現状をどう判断しているか。	Persons	%
1	盛んである。	14	10.4
2	不活発である。	33	24.6
3	どちらでもない。	74	55.2
4	無回答	13	9.7

他方、現状では文化分野では輸入超過という判断になっている。「盛んである」という回答を比較すると、輸入(10.4%)に対して輸出(3.7%)という数字がそれである。これはあくまで印象あるいはイメージである。実際にどうかについては、☆豪日間の貿易額についてのところで示す。

(2) 今後の発展については、約80%の人々が期待している。

Q14	日本との交流への期待度は？	Persons	%
1	たいへん期待している。	61	45.9
2	すこし期待している。	45	33.8
3	期待していない。	20	15.0
4	無回答	7	5.3

(3) では「日本への文化輸出の可能性 (Possibility of Australian arts export to Japan)」については、62%以上の人々が有望であると考えている。

Q14-4	日本への文化輸出の可能性	Persons	%
1	高い。	83	62.4
2	低い。	19	14.3
3	どちらでもない。	23	17.3
4	無回答	8	6.0

(4) そのためには、オーストラリア芸術が日本人に評価されなければならないが、輸出の可能性を信じるわりには理解と評価に不安を抱いている。意見が分裂している。

Q14-7 日本がオーストラリア芸術を評価する可能性	Persons	%
1 高い	53	40.0
2 低い	41	30.8
3 どちらでもない	30	22.6
4 無回答	9	6.8

(5) 市場開拓は有望だが、どこまで可能かについては、欧米のシェアと並ぶことに対する自信は多くない。ここでもスプリット状態（意見の分裂）である。

Q14-5 日本への文化輸出は戦後の欧米に追いつくか。	Persons	%
1 はい	40	30.1
2 いいえ	29	21.8
3 どちらでもない	44	33.1
4 無回答	20	15.0

芸術文化の市場の現状については、資料として紹介する。→ ☆☆ 欧米とのシェアの比較

(6) オーストラリア芸術の日本への輸出を阻害しているものがあるとすれば、文化行政レベルでは何か。

	persons	%
1 日本の文化行政官がオーストラリア芸術を評価していない。	12	9
2 日本の文化行政官はオーストラリア芸術をほとんど知らない。	70	52.6
3 日本の文化行政官は、日本国民がオーストラリア芸術を評価するとは思っていない。	38	28.6
4 その他の考えがあれば、示して下さい。	13	9.8

1) 原因の指摘は批判となることが多いので、デリケートな設問である。「日本の文化行政官がオーストラリア芸術をほとんど知らない」と回答した人が50%を越えている。日本側に情報不足があるという認識になるが、実際はどうか。日本での調査を一部だけ紹介すると、

「美術館関係者の半数以上（57.1%）がオーストラリア文化のイベントに足を運んでいる。」

「回答者の二人に一人は、オーストラリアと具体的な接点を持っている。」

「オーストラリア訪問者の半数以上が芸術鑑賞する。」

「回答者の85%は、豪日文化交流は欧米並みに発展すると期待している。」

回答者はいずれも日本の芸術文化に関与する人々であることを考えると、「オーストラリア芸術をほとんど知らない」という事実はないと思われる。そして日本の回答者の85%が欧米並みの発展に期待しているのにも関わらず、オーストラリア側は30%しか期待していない。問題の所在はインター

フェイスにあるように見える。ここは詳しく検討する必要がある。たとえば、文化輸出を具体的に希望している芸術家や芸術団体側に情報が無い。あるいは手足を持っていない。すなわちコーディネーターを知らない。売り込み先を知らないなどが考えられる。

2) 他方、オーストラリアの芸術文化に関する一般的知識ではなく、日本側にオーストラリアの芸術を招聘あるいは展示を企画するかどうかを判断するための具体的情報が欠けているという可能性はある。それは誰が提供すべきなのか。これも詳しく検討する必要がある。

3) 設問（「オーストラリア芸術の日本への輸出を阻害しているものがあるとすれば、文化行政レベルでは何か。」）は、決められた選択支を選べば、真実が明らかになるという類のものではないので、文章回答欄を用意した。「その他の理由があれば教えてください」というお願いに対して、文章回答は、交流発展のためのアイデア（設問17）を含めると全部で52件、アンケート全回答者の約40%に達した。

その全容を以下に紹介する。回答文は編集によって簡略化されていることをお断りしておく。

内容には共通点も多い。分類すると、以下のように整理できる。（*番号は資料登場順の番号である。）

- (1) 行政側が提供する交流機会の不足、そのための援助の不足（17件）：
2、3、7、11、12、14、15、18、19、22、24、33、35、38、39、45、46、
- (2) 言語、習慣など文化的相違による障害（10件）：1、13、15、28、30、33、42、46、48、50、52、
- (3) 偏見、先入観など不確かな情報の流布（6件）：4、32、37、40、45、46、
- (4) 文化的戦略の不備（売り込む芸術を間違えている、宣伝の不足等）（14件）：
6、17、20、21、23、29、31、32、37、40、41、42、43、47、
- (5) 経済的理由（資金不足、ドル安、）（1件）：8、
- (6) 自己推薦、立候補（チャンスが欲しい）（7件）：9、16、25、26、27、34、36、
- (7) マーケットの限界（公演や展示は選択的にしか実行できないが、オーストラリアが優先権をもてない）（3件）：
10、39、44、

文章回答集

1. Customs are so different in Japan. Deals take protocol and time to seal.
2. maybe we have to work on the cultural exchange a little more
3. limited opportunities for art and culture exchange
4. we suffer in comparison to European arts
5. as an independent producer, keen to develop a relationship to facilitate touring.
6. community arts

7. australian funding to encourage the export of arts is limited.
8. the low value of the australian dollars makes it difficult.
9. It appears to me that japanese people love all things australaian, but don' t necessarily understand australian culture of humor. Thus australian art may be popular because it is australian, not necessarily because it is good art.
10. difficulty of managing diverse expectations
11. more opportunities for networking between australian and japanese culture managers
12. I have been led to believe that access to japanese arts presenters is difficult.
13. possibly language problems
14. I hope assistance at the Embassy and help to create links and funding to develop these opportunities in Japan.
15. the distinction between two cultures is great. A mailing list of venues, organizations, festivals of japanese origin that may be interested in australian arts companies.
16. I am very keen to bring japanese product to australia and to be involved in any cultural exchange residencies.
17. luck of communication and education
18. exchange of artists and exhibitions need to continue and to develop overhead. Much work has already been done and more is needed.
19. money and grants for commercial enterprises. Availability of venues
20. Interested organisations should advertise their interest in relevant australian publications and/or through relevant websites. Exemple : nava website for visual artists
21. Fukuokaa asian art museum. Exchange on contemporary photography
22. that there are more visual art exchanges
23. I am visiting Japan again this month and look again at possible venues
24. we would be very happy to develop exhibitions between sisters institutions.
25. I am running an amazing artist installation gallery and would welcome any exchange with japanese installation amaging artists
26. cultural exchange with arts and disability organisations in Nagano, Tokyo, Osaka,
27. I have 50 works available for an exhibition for Japan.
28. language, finances, distance to travel
29. australian art can't comport with all the other activities using for the attention of japanese individuals
30. generally cross cultural barriers and misconceptions about cultural stereotypes
31. cultural barriers possibly.
32. Australia's promotion of its native animals and natural assets, and japanese perceptions of

Australia as a second rate european and derivative culture prevents a full appreciation of what Australia can offer.

33. language barrier could be an issue. Possibility of artist-in-residency program between Japan and Australia.
34. physical theatre, circus, contemporary music.
35. organize a meeting key exportists and importists of arts from both countries in each artsform.
36. Textiles
37. The Japanese know Australia as the land of Coalas Kangaroos and great fielding. Maybe if we projected an sold a more cultural artistic image of Australia, the development of Australian art's export to Japan might increase.
38. I think there should be more opportunities for arts exchange developed with Japan.
39. Perhaps because japanese officers have to present many cultural activities and Australia is one of many. Facilitating exchanges is an important way of forstering the development of further opportunities.
40. Because Japanese officers feel that in general, "the arts" primarily come from Europe and North America. 1) Promote the idea that Australian contemporary art is important to Japan in terms of a regional consciousness. And especially in terms of the future. 2) Work with australian artists to specify which leve or type of Gallery is suitable for them in Japan.
41. For success, any Australian art's export to Japan must be supported by the appropriate Japanese arts organisation or a successful Japanese arts entrepreneurs. It is not sufficient if it is only supported by the Australian Embassy in Japan.
42. Use of Australian Embassy to profie arts related to days which are significant to either Australia or Japan. Foe exemple, Australia day, Hiroshima day. Variety of Asutralian arts to profile in Japan who are absent. Profile Australia's best visual and performing arts in Japan of Bell Shakespeare, Sydney Dance company, Klaus Urgi? (glass artist). To visit Asustralia so that they can share their expeiences on return.
43. advertise cinemas very effective
44. maybe because japanese officers are so busy researching all of the genres of art in so many countries, that they only have time for the High Art end of the spectrum.
45. An increasing percentage of the Japanese populations have or intend to visit Australia they are shown tourist destinationas but not as often the cultural attractions: museums, art galleries except aboriginal arts. Interested in exchange of 20 art works with a secondary school. I have visited Japan twice. The traditional forms of art are on display in cultural and craft center. Often it is difficult to see contemporary modern japanese art work.
46. Cultrally so different, in expectation that both parties? Need education. To have more

cultural exchange is important, invaluable to both parties?

47. strategic promotion of Australian arts as contemporary, vibrant, sophisticated and diverse.
48. Language supposed cultural barriers, less personal communication is??? up the relationships.
We need less technically advanced communication and face to face meeting.
49. This college at the present time has close?? To China and would like to extend them to Japan.
50. Because the Australian market is too small. Student exchange system is expected
51. We have no immediate plans but we are interested in the possibility. Rhonda Noble, curator of art works
52. development of the assistance for cultural exchange between Japan and Australia could raise the profile of both visual and performing arts in both countries

☆ 豪日間の貿易額について

(1) オーストラリアにとっては、日本は輸出国として第一位の国である。鉄鉱石やボーキサイトなどからはじまり、羊毛や食肉など一次産品が多いところに特徴がある。ここで少し統計によってオーストラリアと日本の関係を確認する。

オーストラリアの調査によれば、2000年の貿易輸出入総額で日本は第一位にある。しかしどちらがより多く輸出しているか。

「貿易内訳—オーストラリア2000年 (Composition of Trade - Australia 2000)」

オーストラリアの主要貿易相手国

主要貿易相手国(輸出入総計)	輸出入総額(豪ドル)
1. 日本	372億
2. 米国	341億
3. 中国	151億
4. 韓国	139億
5. ニュージーランド	111億
6. イギリス	107億
7. シンガポール	96億
8. 台湾	91億
9. ドイツ	72億
10. マレーシア	66億

(オーストラリア大使館HPより引用)

(2) 日本の商務省データを見ると、貿易額一般については、オーストラリア側の12%以上の輸出超過になっている。

オーストラリアへ輸出と輸入 (総務省統計局統計センター)

(単位 100万米ドル)

該当年度	輸 出			輸 入		
	1997	1998	1999	1997	1998	1999
	62,910	55,901	56,082	65,892	64,630	69,114

(総務省HPより引用)

- (3) 在日オーストラリア大使館Public Affairs Section 広報部（2001年6月19日）の報告では、輸出218億豪ドルに対して、輸入153億豪ドル、42%の輸出超過になっている。

「オーストラリア連邦政府外務貿易省が発表した貿易関連資料によると、日豪貿易額は2000年に20パーセント以上の伸びを示し、新記録を達成しました。レポート（「貿易内訳—オーストラリア2000年（Composition of Trade-Australia 2000）」）によると、日本は依然、オーストラリアにとり米国を凌ぐ最大の貿易相手国となっています。2000年の日豪貿易総額は372億豪ドルとなっており、これはオーストラリア全貿易額の16パーセントを占めています。オーストラリアにとり日本は最大の輸出市場であり、対日輸出額は31パーセント伸びて218億豪ドルを記録しました。この数字はオーストラリア全輸出額の20パーセントにあたります。

日本への主要輸出品目としては、石炭、鉄鉱石、アルミニウム、液化天然ガス（LNG）および液化石油ガス（LPG）、牛肉等が挙げられます。さらに石油精製品、化学製品、エンジン、車関連部品、製造品の対日輸出は、新記録を樹立しました。また酪農品や海産物などの加工食品の輸出も、記録的数字となりました。統計によると、オーストラリアの日本からの輸入額は2000年に12パーセント増加して153億豪ドルとなりました。日本からの主要輸入品目には、乗用車や輸送用自動車、自動車部品、コンピューター等が含まれます。」（プレス・リリース TK31/2001）

- (4) 以下に経年推移を示したが、商品としての芸術文化は、美術工芸品はMerchandise exports、舞台芸術はServices exportsに含まれるために区別不明である。一般論としては、商品にはデザイン性が伴う。自動車や電化製品は、デザインで売る時代である。オーストラリアは日本へ一次資源の輸出をし、日本からは完成品を輸入しているために、印象としては文化的輸入が多いように見えるが、実態は量的にも質的にも少ない。日本から海外へ出かける芸術家の統計があるが、100件に満たない。

Australia's trade with Japan

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	(\$A billion)
Merchandise exports	16.6	15.6	16.8	17.4	16.7	21.8	Growth Trend*
Services exports	3.4	3.8	3.7	3.4	3.2	3.6	4.7
Total exports	20.0	19.4	20.5	20.8	19.9	25.4	0.9
Merchandise imports	12.0	10.2	11.4	13.3	13.6	15.3	3.7
Services imports	1.6	1.5	1.4	1.5	1.9	2.0	6.6
Total import	13.6	11.7	12.8	14.8	15.5	17.3	5.6
							6.5

(Trend growth for the period 1995-2000. Source : Australian Bureau of Statistics)

(5) 日本から海外公演のために出国する芸術家&団体数

Japanese artists and bodies who go abroad

	1991	1992	1993	1994	1995	1996
theatre	29	31	30	40	29	52
classic ballet	2	3	1	0	3	3
opera	0	0	2	0	1	0
dance	17	16	29	33	24	30
entertainment	6	0	2	5	2	0
interdisciplinary	0	0	3	2	5	3

(6) 両国のアーツ・マーケット

ここで視点を変えて、芸術マーケットの規模を確認してみよう。日本の市場規模は、通産省（現総務省）の『レジャー白書』によれば、以下の通りである。すなわち、舞台芸術のチケット販売額は、1997年で3,510億円。参考までにスポーツ観戦チケットの場合は1,260億円である。オーストラリアの場合は、3億4180万豪ドル（約205億円）。参考までにスポーツ分野では、施設利用という定義での収入は、7億9630万豪ドル（約478億円）である。舞台芸術の市場規模は、金額では、オーストラリアは日本の19分の1（約5.8%）である。

しかし国内総生産（GDP*）は、日本は1999年度で約512兆円規模、オーストラリアは約37兆円規模である。両国のチケットマーケットの対国内総生産に占める割合は、正確に言えば、3510億円／512兆円：205億円／37兆円であり、比率からすると、1.24：1になり、24%程度日本の方が消費高の比率が多い。しかしこれは日本のチケットの値段が相対的に高いことを考え合わせれば、ほぼ同じか、逆に低いかも知れない。

* 国内総生産（GDP）の定義は、総務省統計局によれば、「国内」における当該期間の各種の最終支出の合計値である。すなわち、国内総生産（GDP）額は国内総支出（GDE）額に等しい。この場合の最終支出とは、「財貨・サービスの輸出」、「財貨・サービスの輸入」、「民間最終消費支出」、「政府最終消費支出」、「固定資本形成」、「在庫品増加」からなる。

オーストラリアから見ると、日本の市場は確かに量的には約20倍である。また人口を係数として比較すると、国民1人当たりの比率は、2.5：1となり、単純比較では日本の方が150%ほど多く消費する。これは日本人の方がより芸術的消費をしているということを意味するだろうか。

GDPの0.068%とは、国民1人が年に1回、劇場に足を運ぶだけの数字である。単純計算でチケット販売の総額を人口で割れば、一人当たり2700円になる。これは商業ベースの芸術鑑賞に届かない金額である。そして実際に1年に1回でも劇場に足を運ぶ延べ人数（映画芸術含む）を分母にすると、その数値は約5000円になるが、これは商業ベースの演劇鑑賞1回分にしか該当しない。オーストラリアにあっても同様である。年間チケット売上高を人口で割れば国民1人当たり、1079円（約17豪ドル）の消費になる。これは商業ベースの劇場鑑賞に届かない。やはり日本同様、その倍額を支払わねばならない。両国のチケット料金の相場を考えれば、日本で2700円のチケットは、オーストラリアで

は約17ドル（1079円）で買えるチケットと同じくらいである。多くの旅行者が経験してきたように、オーストラリアの舞台芸術のチケットは日本に比較してかなり安い。これはヨーロッパについても同じ事が言える。これは政府の対文化支援の差でもある。日本の文化支援は基本的に事業ごとの補助金であり、制作費全体の10%から30%の範囲である。これに対してドイツのオペラハウスの場合、その逆になっている。チケット収入が30%で残りが政府の負担となっている。つまり日本の文化支援の現状を考えれば、両国の文化消費事情はそんなに変わっているわけではない。日本の方が恵まれている（より多く芸術鑑賞を楽しんでいる）ということの意味しない。日本は1980年代後半から1990年代初頭にかけてバブル経済を経験した。しかし文化消費が輪をかけて増加したわけではない。観客動員でもチケット販売総額でも大きな変化はない。ただし不思議なことにバブル経済崩壊以後、動員数は変化しないが、チケット販売総額が増加している。デフレ現象すら発生しているのに、チケット単価が高くなっているからである。国民は、質の高い鑑賞であればチケット値段が高くても購入する時代が到来している。しかし繰り返すが、観客動員数は増加していない。社会階層の2極化（貧富の差の拡大）が進んできたことを示している。

各種統計

1. 日本の文化消費 Market of leisure (audience of sports & arts)

	1982	1985	1988	1991	1993	1994	1997
sports	690	800	1,020	1,190	1,400	1,370	1,260
cinema	1,690	1,730	1,620	1,630	1,640	1,540	1,770
theatre	860	940	1,050	1,140	1,190	1,130	1,300
variety show	290	300	240	270	290	300	280
music	1,500	1,170	1,620	1,660	1,850	1,890	1,930
fine arts	500	430	470	490	540	580	570
performing artsのみ	2,650	2,410	2,910	3,070	3,330	3,320	3,510
Artsのみ	4,840	4,570	5,000	5,190	5,510	5,440	5,850
general total	5,530	5,370	6,020	6,380	6,910	6,810	7,110

『レジャー白書』より作成

2. オーストラリアの文化消費

	Music and theatre production	Performing arts venues	Services to the arts	Total
Businesses at end June (no.)	881	150	369	1399
Performing arts spaces (no.)	48	315	...	362
Employment at end June				
Working proprietors and partners (no.)	354	—	87	442
Employees (no.)	5727	5601	1589	12918
Total (no.)	6082	5601	1676	13359
Income				
Government funding (\$m)	179.3	88.9	26.1	294.3
Income from box office (\$m)	264.9	76.9	...	341.8
Other income (\$m)	150.0	165.8	329.4	645.2
Total (\$m)	594.3	331.6	355.5	1281.3
Expenses				
Labour costs (\$m)	223.2	105.2	42.0	370.5
Contract payments to performers/artists (\$m)	32.8	7.2	78.7	118.7
Other expenses (\$m)	335.8	208.0	212.2	756.0
Total (\$m)	591.8	320.4	332.9	1245.2
Industry gross product (\$m)	223.5	112.7	64.8	401.1

(ABS資料 (統計局) より引用)

3. 日本の観客動員数 audience of watching sports & performances

	100,000,000 yen/unit				
	1989	1991	1993	1995	1997
sports	1,980	2,090	2,150	2,030	1,850
cinema	3,060	2,810	3,130	3,000	3,020
theatre	1,300	1,220	1,330	1,240	1,360
variety show	570	520	620	570	500
music	2,130	2,200	2,290	2,200	2,140
fine arts	1,460	1,570	1,730	1,710	1,540
Performing arts Including cinema	7060	6,750	7,370	7,010	7,020

(総務省『レジャー白書』より作成)

☆☆ 欧米とのシェアの比較

	1991 1992 1993 1994 1995 1996 for 1996 (%)						
Australia	3	3	4	4	3	2	1.5
New Zealand	0	0	0	0	0	1	1
France	7	13	11	20	15	19	18.4
Germany	2	8	10	7	4	6	5.8
UK	14	16	12	19	14	10	9.7
USA	16	18	17	15	13	21	20.4
Russia	13	19	16	13	9	18	17.5
China	7	8	7	10	14	8	7.8
Korea	13	11	7	14	15	9	8.7
India	5	3	5	2	3	2	1.5
Indonesia	3	3	3	5	4	3	2.9
Canada	4	3	2	7	5	3	2.9
collaboration with Australia			1	0	1	1	1
all			95	116	100	103	99.1

To make this figure, I used the data of Japanese government (the ministry of International trade and industry ; the prime minister's office) and Japan center, Pacific Basin Arts Communication.

日本における海外芸術のマーケットの占有率を見ると、2つのグループが全体の80%を占めていることがわかる。

第1のグループは、欧米とロシアである。フランス、アメリカ、ロシアはいずれも20%前後の占有率を誇る。英国は年によって波がある。1994年について言えば、17.2%であったが、1996年は10%を切る状態である。1994年以後、来日数が低下している。

第2のグループは近隣諸国の中国、韓国である。距離が近いために遠征経費が安い。文明的に近いこともあるが、そのことよりもアジア芸能への関心の高まりによって増加した。

オーストラリアの来日公演数は年間数件でしかない。シェアはコラボレーションも入れても3%に達しない。この数値を英国水準にすることができれば、あるいはアメリカのように20%の大台に乗せることができれば、収入増はたいへん大きいものになるだろう。しかしそれを実現するための経費も莫大ではないだろうか。日本における外国芸術の舞台公演はここ10年間、市場規模に変化がない。つまり先行者のシェアを奪うことによってしか拡大を計れないことを意味している。

ただしこれは既存の芸術を前提としている考え方である。もし先行者の芸術にないものを持ち込むのであれば、その市場はまったく別物だろう。

来日芸術家&団体の総数は、年間100件前後を推移している(*)。1ステージ1億円以上の興行(世界的オペラ歌手、アメリカの有名ポップシンガーの来日などがそうであるが)から数百万円のものまで舞台公演の規模は様々である。また舞台公演ではなく、ワークショップなど予算規模が百万円規模ですむものもある。1件の売上高を仮に平均1億円と計算しても全体では100億円にしかならない。チケットマーケットの総額3510億円の3%以下である。その狭いマーケットの占有率(シェア)の競争に勝つための費用を考えると、日本へ本国芸術を輸出することは、商売として考えると採算が取れるかどうか疑問である。もちろん、芸術家は、ツアー先を一つ増やせば、生活が楽になるということはある。芸術家の支援として大切であるが、国家規模の財政にプラスになるほどのことではないということである。芸術文化の貿易とは本質的に交流事業であって、その支出は公的便益性によってしか購われないということである。

(*) ここには、労働査証(ビザ)ではなく観光ビザで入国して、日本各地のクラブやバーでダンサーやミュージシャンとして稼いで帰国する一種の不法一時就労者は含まれない。その数は相当であろうが、非合法であるために公式統計がない。